



第46号

一発行一

一般財団法人 石川県剣道連盟

〒920-0811
金沢市小坂町西57-3 KSハイツ205号室
TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341
E-mail:ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp
URL www://ishikawa-kendo.com

特集記事

5頁「剣客往来インタビュー」

剣道教士八段 岩脇 司氏

6頁「郡市剣連紹介コーナー」

加賀市剣道連盟

私の剣道

相談役



山下和廣
(教士八段)

私の剣道修練は今年で61年目を迎えます。郷里の鹿兒島で剣道を始めたきっかけは、中学2年のとき授業で週二回剣道か柔道を選択しなければならず、見学に行き剣道を選んだことです。

当時、校長先生で後に範士九段になられた重岡昇先生に手ほどきを受けました。旧日置郡の先生方の影響か郡内の中学校は県のトップクラスで、中でも土橋中（東良美先生が卒業生）、郡山中は強豪でした。現在旧日置郡出身の八段が8人います。

高校時代は矢崎時雄先生に厳しい指導を受けました。月に2、3回鹿兒島県警の特練生が稽古に来てくれました。当時20歳代の有満先生の稽古は大変でぶつかれば跳ね飛ばされ、突き倒され鍛えられました。3年生になってからは、学校の稽古の後、市内にある大道館に行き、中倉清先生や一般の方にも指導していただきました。帰りは8時過ぎの汽車でくたくたになり帰宅しました。おかげで県下大会で1回優勝し、国体県予選でも優勝し九州大会に望みましたが後一歩でした。

卒業後、東洋レヨン(株)（現東レ(株)）愛知工場に入社、当時愛知工場は全日本実業団剣道大会3連覇中で、先輩たちは、インターハイや国体で活躍したとても強い選手の中で鍛えられました。当時の師範は近藤利雄先生でした。東レ(株)は会社設立以来剣道と柔道を社技

としており、毎年東レ社内大会が開催され、この大会を制したチームが全国大会を制するとも言われていました。この大会では持田十段がご来賓としてお見えになりました。

全日本実業団では、選手として準優勝1回と監督としても準優勝1回の経験があります。また、地域の子供たちにも剣道を指導して最多70人を指導しておりました。

会社の転勤で石川県にお世話になり、その頃石川県国体の強化が始まっていて、強化で合宿、遠征で全国37都府県300試合をこなしましたが、40歳を過ぎてからの体にはかなり無理があり怪我や病気で迷惑をかけました。会社では、当時の工場長に理解をいただき、公務執行で合宿遠征に行くことが出来ました。選手に選ばれ優勝をしたときは、これまで応援いただいた

会社や家族に支えられたおかげと感謝しています。

優勝を機に自分の剣道の考え方が今までの方向と変わってきました。県外の稽古会に参加し色々な先生方に八段審査を意識した稽古をお願いするようになりました。

特に、有満先生に言われた二拍子の打ちや、東京の講習会で警視庁名誉師範の長島先生に手の内の教えなど、指導いただいたこと全部素直に聞き、自分に適したことを取捨選択し稽古に活かしたおかげで平成15年秋に合格できました。

合格した後は今までとは違う剣道界が見えてきました。全国大会の審判、審査にも参加させて頂くようになり、益々勉強しました。自身の稽古では、みんなの手本になるよう努力し、後進の指導では昇段審査を考え、また強化では、少年から一般まで全国に通用する選手に育てていく責務を感じながら行いました。その甲斐もあり全国大会で上位に、また、高段者も多く輩出するようになりました。

これからは、健康に留意して楽しく生涯剣道を目指し、微力ながら県連の剣道上達に貢献できればと思っています。



昔から3年待つてもいい師匠を選べと言われていますが、私の場合に行く先々に立派な先生方が見えられました。石川県の田畑先生、穴田先生、榎谷先生をはじめ、椎名先生、佐藤博信先生方に指導いただき有り難く感謝しております。今、新型コロナウイルスで稽古できませんが、独りでできることを考えて、素振り、空間打突の手の内、竹刀を握る適正な手の内、一拍子の踏み込み、左足の引き付け、打突の機会等やれることをやり終息後に備えて行きたいと思えます。

【追記】
山下先生におかれましては、斯道発展の功績が認められ、昨春秋の叙勲で「旭日双光章」を受章されました。ご健康に留意され益々のご活躍をお祈り申し上げます。

各委員会の 重点目標・活動方針 について

一 総務・綱紀委員会 (近藤繁彦)

1 組織運営の充実

① 倫理規定の改正

平成30年11月2日の全剣連「倫理に関するガイドライン」の制定を受けて、また今日のスポーツ界の現状を受けて、組織としてのガバナンス(統治)とコンプライアンス(法令順守)の必要性を強く感じ、当連盟「倫理規定」の改正に至った次第です。

- ・全剣連ガイドラインの理解実践
- ・倫理部会の命を受け綱紀委員会
会が調査機関として機能
- ・全剣連との連絡・報告等の連携

② 会員数の拡大

一般財団設立当初の756名から加盟団体のご協力により昨年度901名まで会員増を図ることができました。組織の基盤づくり、中でも財政の健全化のためにも千名超を目指してまいります。

2 会計に関すること

消費税10%に加えて財政基盤の確保の上で、当連盟の収入主体である会費、審査・登録料等の見直し喫緊の課題です。今年度からの導入にぜひご理解を願います。

3 少年教室指導者への表彰

剣道人口の基盤を支える少年剣道教室、その指導者のご労苦に對して、顕彰したいという意図で創設いたしました。

二 強化委員会 (宇波和彦)

本県剣道連盟の重点目標である「各種全国大会におけるベスト8以上の入賞」を達成するために、着実に結果を出し続けているジュニア強化を中学生から高校生に引き継ぐための方策として、平成28年度より導入した中高連携強化を多角的に検証しながら実施してきました。

昨年度においては、「全都道府県大会」で小学生の部ベスト16・中学生の部ベスト8、「茨城国体」では2年連続の少年女子が五位入賞の好結果を出すことができ、着実に競技力が向上している反面、成年の部ではほとんどが初戦敗退という結果となり大幅な強化対策の改

善が浮き彫りとなっています。

これらを総合的に評価し効果のある強化事業を計画していきますので、県内の全ての剣道関係者の皆様が一丸となり、選手の育成が図れるようご協力をお願いいたします。

三 普及委員会 (本橋克也)

① 剣道普及事業 (剣道巡回指導)

の推進により正しい剣道の普及と剣道人口の増加に努める。

② 石川県・全剣連による剣道講習

会の充実を計り剣道の正しい認識と普及に努める。

③ 少年・高校生の剣道人口調査の

実施により本県剣道人口の動向を集計し、調査分析により今後の普及対策を講じる。

今後とも、正しい剣道の普及と剣道人口の増加を目指し活動を進めて行きたいと思えます。

四 事業委員会 (大田政信)

事業委員会の主な任務は、各種大会等の準備、運営に関することであります。

試合は、自分を表現する最大の場所であり、そこから夢や希望が生まれ、特に少年や中高生への将来に大切なものです。それを表現

する土俵はしっかりしたものでなければなりません。

本連盟の基本方針は『剣道の理念に基づき、社会から高く評価される剣道界の発展を目指し、剣道の普及を図る。』であり、この方針に基づき各委員会と連携を図りながら環境整備に努め、競技しやすい立派な土俵を作つて（大会運営を図つて）いきたいと思つています。

大会会場では数年前から「大会名記載の看板掲示」「役員席の白布設置」など盛り込んで、格式高大大会運営を目指してきました。

また、本連盟会長の御努力を得て、昨年、(株)IOデータ機器の協力のもと、大会結果のIT化も試みました。これは県外から視察に訪れるほど好評でした。

今期、事業委員会委員一同、更なる活性化に向け努力したいと思つております。

五 審査委員会（岩脇 司）

県内における剣道昇段審査は、全日本剣道連盟称号・段位審査規則、同細則に基づき実施しています。毎回各審査員の審査内容を精査し、規則第9条にあるように、「厳正、適正かつ公平」な審査が

行われるよう努めています。

今年度の重点項目は以下の二点を考えています。一つめは「学科試験について」です。昇段審査における学科は、実技、日本剣道形と並ぶ審査項目のひとつですので、より客観的に評価できるよう、内容、評価方法の精選に取り組みます。二つめは「審査申込書について」です。従来の書式を見直し、よりわかりやすく、間違いなく記載できるものにと考えています。

これからも剣道修行における大切な位置付けである昇段審査への積極的な挑戦を是非お願いします。

六 試合・審判委員会（杉本卓也）

「審判が良くなれば試合が良くなる。試合が良くなれば剣道が良くなる。」

試合の場面では、多種多様な状況が発生します。その状況に対応するための措置は、必然的に規則に基づいた審判員の判断に委ねられることとなります。

したがって、審判員は剣道試合・審判規則を理解し、適正な試合運営に努め、試合を活性化させるために、審判技術の向上に努めなければなりません。

この目的を達成するため、本連盟は、審判技術の更なる向上を目指すこととし、本年度新たに同委員会が加えられました。

正しい審判知識・所作等を会得してもらおうとともに審判上の共通理解を図ることによって、審判員が自身を持つて任務に当たることができ、その判断に試合者は共感・納得し、技を競い合い、観戦する者は試合に感動を覚え、剣道の素晴らしさを感じてもらえるよう推進して行きたいと考えておりますのでご協力をお願いします。

七 広報委員会（山辺哲夫）

一 重点目標

・ 広報活動の充実により、剣道の正しい認識と普及に努める。

二 活動方針

(1) 剣連だより「剣風春秋」

① 発行回数・部数

・ 年二回（7月・12月）の発行

・ 8頁仕様1200部による一般

県民への広報活動の充実

② 掲載内容

・ 研修会等の受講報告

・ 多面にわたる剣道取組の紹介

・ 剣客往来（会員インタビュー）

・ 地域団体活動状況の紹介

・ 中央審査に向けた参考記事
・ 全国大会等記録

(2) 剣連事業の広報活動

・ マスコミとの連携充実

・ 新聞、テレビ等により一般県民の剣道への認識・理解を深める

八 居合道委員会（中村正人）

1 全日本居合道大会の開催

① 大会運営

石川県剣道連盟から経済的、人材的支援をいただき、全剣連と連携しながら最小限の経費で成功裡に終了する事を目標にいたします。

② 選手強化

選手層、レベル共に弱小県ではありませんが、大会に向けて選手のみならず全員が高いモチベーションを持つて機運を上げております。

全剣連居合道委員長 草間純市

先生に大会まで月一回のペースで外部講師として指導をいただきます。

2 倫理についての研修会実施

全剣連の指導に基づき県内講習

会などの機会に、倫理研修会を実施し、武道人としての潔さ（いさ

ぎよさ）と崇高なる精神を涵養しなければなりません。

3 居合道人口増加施策の実行

石川県居合道会員人口約七〇名

現在活動会員人口約五〇名 全国の居合道人口増加策を参考に多様な方策を駆使しながら、年齢性別を超えた優秀な人材を確保することが必要です。

九 杖道委員会(ピットマンハイコ)

全日本剣道連盟の傘下には、「三道」と言われる剣道、居合道、杖道があります。「全日本剣道連盟杖道」の場合は、太刀(木刀)を「打」、杖(長さ128cm、直径2.4cm)を「仕」とする基本12本と形12本を稽古します。服装は袴や道着で、防具は着けません。全剣連杖道の母体は、およそ400年前の現在の福岡県で、夢想権之助に創始された古流・神道夢想流杖術であり、その技法については伝書の中に、「突かば槍 払えば薙刀 持たば太刀 杖はかくにも はずれさりけり」とあります。つまり杖は、槍、薙刀、太刀と様々な使い方ができるということです。さらに、杖の両端も使え、また左右で操作する技が多く見られます。そして杖道の目的は剣道や居合道と同じく、生涯にわたって心身ともに修行することにあります。

石川県での杖道人口はまだ少な

く、愛好者を増やすことが大きな目標であり、そのために、積極的に情報を発信し、演武を行うことによつて杖道の知名度を上げることが大切であると考えております。年間行事としては、春に級審査会、夏に昇段審査会、6月に中央講習会や10月に全日本杖道大会への参加を実施しています。

十 少年委員会(山本重之)

○一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
○スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
○スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する
このスポーツ少年団の理念を活動方針とし、日々の活動を行ない、毎年十二月にスポーツ少年団剣道交流大会を開催しています。本年度で四十八回を数え、当日は石川県剣道連盟会長を始め、多くの来賓が列席され、明日の石川県の剣道界を担う選手達の戦いに熱い視線を注いでおられます。会員の皆様にも是非、来場いただき、熱い視線を注いでください。

少子化による会員数の減少は否めませんが、剣道を通してスポー

少年団の理念を少しでも多くの県民に浸透させ、会員の増加に努めてまいります。

今後とも会員の皆様の御指導、御鞭撻をお願いいたします。

十一 女性委員会(岩脇律子)

女性委員会が発足して八年目となります。以来、稽古会や研修会を通して、女性剣道の普及・発展に努めてきました。県内の一般女性剣道人口は、60人を超えます。いかに稽古時間を捻出するか、どうしたら上達するかなど、剣道に対して真摯に向き合う方が大勢います。

そこで、今年度の重点事項は、「女性剣士の交流の活性化」と考えております。そのための活動として、「女性稽古会」「秋の研修会」「女性講師を招聘しての講習会」など、積極的に行っていききたいと思っております。

女性の皆様に気軽に参加していただけるよう委員四名アイデアを出し合つて企画していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

十二 ゆーりんピック委員会(中村康徳)

平成21年より組織的に活動が開

始され、翌年の羽咋市で開催された全国大会では声援に後押しされる中、圧倒的な成績を勝ち取る事ができました。「試合に勝つための激しいかかり稽古」が実を結びました。

以来、月一回の稽古会と全国大会の予選会を皆さんの協力により実施してきています。

剣友は、60歳以上から、最高齢者は昭和14年生まれの猛者であります。毎回の稽古会には二十名余が県内各地より参集し、稽古前や休憩中は近況(健康、稽古のこと等)を出し合い歓談の場となり、非常に有意義なひとときです。

稽古は基本稽古、互角稽古、試合練習が主な内容で「かかり稽古」はしていません。全国大会に出場予定の選手は県剣連や道場での稽古を重ねて出場しています。今後、この状態で推移していく予定で、60歳以上になりましたらどうぞご参加下さい。

十三 実業団委員会(吉村嘉綱)

実業団の活動は石川県大および北陸三県大で、実業団剣道連盟を発足頂き、それぞれ年一回の大会を石川県剣道連盟のご指導・ご支

援のもと開催致しております。

大会概要は石川県大が団体戦と個人戦（令和元年で第五回大会）を実施しております。一方、北陸大は団体戦のみでありましたが、令和元年（第三回大会）からは、個人戦を加えております。

実業団大会の今後の継続と発展をしていくための当面の課題は、参加者による大会運営方式の確立および大会運営の人材育成が必要であります。

課題に取り組むための重点事項は次の通りです。

①大会運営の参加型方式確立

- ・大会マニュアル・要綱の整理及びその内容の浸透

②大会運営の人材育成

- ・石川県大組織体制の強化

なお、この重点事項を実施し、大会を継続発展させていく基礎は大会参加者の確保であります。皆様方のご支援をお願い致します。



剣客往來 インタビュー



小松市立南部中学校 校長 岩脇 司 (剣道教士八段)

本日は、四月より小松市立南部中学校の校長として学校運営にお忙しい日々を送られている岩脇先生にインタビューしました。

問 剣道を始めたきっかけについてお聞かせください。

剣道を始めたのは小学校2年生です。父親には「男は、最後は身ひとつで勝負できるように」との考えがあり、自身が柔道五段であるので私にも柔道をさせようと思ったのですが、母親が強く反対し、なかなか実現しなかったようです。それでも、対人競技、それも武道をなんとかしてさせたかった父親が、をなんとかしてさせたかった父親が出した妥協案が剣道で、なぜか母親も剣道なら同意し、私本人の意見は全く聞かれないまま、剣道をするようになりました。

問 少年・中学・高校・学生時代の剣道の思い出はどのですか。

小松少年剣正会（現小松桜木剣正会）時代は、身体も小さく、怖がりだったこともあり、試合にはほとんど勝つたことはありませんでした。当時の牛島英一先生、中村清先生の、「勝負は中学校へ行ってから。今は癖をつけないように、基本をしつかり。」との教えを、不器用な私は忠実に守っていたように思います。丸内中学校時代は、林義也先生の「正しい剣道で勝つ」ための厳しい教えの下、弱かった私も少しずつ勝つことを覚え、ひとつ上の坂ノ下忍先輩（現三井不動産）、ひとつ後輩の小田哲生（現金沢桜丘高教）などの仲間にも恵まれて、「打倒宇ノ氣中」に明け暮れていたように思います。宇ノ氣中とはよく練習試合をして、当時の顧問の平島敏彦先生を見て、『ウチとどっちが厳しいかな...』といつも思っていました（笑）。小松高校時代も、引き続き林先生にご指導いただくことができました。三学年合わせてやっとメンバーが揃うようなチームでしたが、大学でもお世話になる佐竹康弘先輩（現鳴和中校

長）や黒本晋一（小松市協会）と、金沢桜丘、羽咋、星稜に勝つための厳しい稽古をしていた光景が、今でも鮮明に思い出されます。県春季大会で二位になった時には、少しの自信と、仲間の力が結集した時のすごさを感じることができました。金沢大学では、地方の国立大学というコンプレックス（女子は一流でしたが...）を常に感じつつ、それでも関東、関西の強豪には負けたくない、地方にいてもやれるんだという反骨精神のようなものを支えとして、恵土孝吉先生の下、稽古に励んでいました。また、相内俊夫先生に、「正しく剣道しなさい」と教えていただいたこともよい思い出です。

問 教員になって中学校剣道部の指導において苦労したことや思い出になることは何でしょうか。

大学を卒業してすぐに新採として小松市立芦城中学校に赴任しました。指導力のない若造は、「稽古量を増やせば強くなる」としか考えられず、部員にひたすら厳しい稽古を強いていました。そのため、生徒の素質では十分県体優勝でき

るチームを預かりながら、二年目に挑んだ県体でも準決勝で羽咋中に代表戦で敗れ、メンタル面のカバーもろくにしてあげられないままに臨んだ三位決定戦で志雄中に惨敗し、北信越にも進むことができませんでした。自分の指導力不足以外の何物でもなく、今でもその頃の生徒には申し訳ない思いで一杯です。そんな私に指導の転機が訪れたのはそのしばらく後、堀岡宏美（現姓才野）という生徒との出会いからでした。彼女はスピードと持久力は抜群でしたが、決して器用とは言えませんでしたが、そこで、彼女のスピードを生かせる技を限定し、その技に絶対の自信を持たせることにしました。

結果、彼女は「小手すりあげ面」と「引き面」だけで県体、北信越を制し、全中でも存分に力を発揮してくれました。彼女のおかげで、中学校から始めるような生徒には、いろんな技術を身につけさせるより、適性のある技を絞り、その技を磨いていくという指導の方向性が定まりました。その他にも、高校で剣道が続けてくれるためには結果を残さないといけないという凝り固まった考えに新しい視点をくれたのは、県立武道館に勤務していた

ときの武道教室生の中学生たちでした。生徒から学ぶことばかりで、本当に感謝しています。自分では初めての綿密な3年計画で仕上げた松陽中のチームで臨んだ県体での津幡中との決勝戦0-5の完封負けも今ではよい思い出です。



問 現在、校長として学校運営で心がけていることは何でしょうか。

「チーム南部で温もりのある教育活動を」これが今年度のテーマです。今は過去に例のない社会情勢であり、刻々と変わる状況、指示の中、校長として毎日が緊張の連続ですが、こんな時こそ、職員が一人丸となって力を発揮できるチーム作りを心がけています。生徒のため、ともに働く仲間のために温かい心で取り組んでいける、そんな学校でありたいと思います。職員室で声をかけています。

問 剣道と仕事の両立を目指す若い世代にアドバイスをお願いします。

仕事をしながら稽古を続けるのは本当に大変です。ただ、「時間があれば」ではなく、「この時間は稽古」とスケジュール化すれば稽古はできるものです。試してみてください。

お忙しい中、インタビューを誠にありがとうございました。今後とも健康に留意され一層のご活躍を祈念いたしております。

特集

郡市剣道連盟

紹介コーナー

「交剣知愛」 加賀市剣道連盟

1 加賀市について

加賀市は、県の最西端に位置し、人口は6万6千人の中規模の市であります。市内は、旧大聖寺藩城下町の大聖寺地区、加賀温泉郷の山代・山中・片山津、北前船のふる里の橋立・塩屋地区があります。また、山中塗、九谷焼の発祥地でもあります。

2 稽古場所について

加賀市武道館（大聖寺）と山中武道館（山中）で、それぞれ少年剣道教室の活動を中心に稽古を実施しています。一般の稽古は、加賀市武道館では毎週木と土の午後8時から9時まで、山中武道館では毎週水と金の午後7時から10時までとなっております。

稽古の内容は、剣道の基本を正しく習得することを目標にして、各人が目標・課題を持って日々の稽古に励んでいます。

3 活動内容について

加賀市剣道連盟の行事として、6月の市民大会、8月の少年剣道夏季合宿、2月の石川県警剣道特別訓練員との「剣士のつどい」があります。

「剣士のつどい」は、石川県警剣道特別訓練員から普段の稽古内容の披露や剣道の実技指導を受けて、今年で16回目の実施となりました。少年剣士にとって剣道特別訓練員は、憧れのスーパースターであります。少年剣士達の目標となっております。過去に受講していた少年剣士が、今では剣道特別訓練員として後輩少年剣士を指導する姿を

見て、継続してゆくことの大切さや
剣道の魅力を再認識しています。

4 最後に

少子化や少年スポーツの多様化により、過去は150名以上もいた少年剣士が、現在は10名前後の減少傾向にあります。剣道の魅力をもっと子供達に伝えるために県体と郡市対抗大会は、優勝を目指して日々の稽古に励みます。



「第七回女子剣道指導法講習会」に参加して

白山市
堀内 宏子

2月22日・23日、兵庫県にて開催されました標記講習会を受講させていただきました。

今回の講習会は世間ではまだ二部しか自粛制限がかかっていない時期に開催されました。

そのような中、マスクの着用、手洗いや消毒の徹底、講習会の時間短縮の下、全国から約70名の女性が集い、受講できましたことはとても幸運でした。

一日目は奥島快男副会長による「女子指導者への期待」の講話から始まり、日本剣道形、木刀による剣道基本稽古法、互角稽古の実技が行われました。

日本剣道形の稽古では、細部の所作をご指導いただきました。自分では正しく打っているつもりでも、解説書とは違った打ち方になっており、解説書を熟読し、日頃から日本剣道形の稽古に努めることの必要性を改めて感じました。

二日目は中田琇士指導部会長に

よる「剣道の指導について」の講話、実技で青少年の指導、竹刀稽古法が行われました。

軽米満世教士による青少年の指導では、幼少年が楽しく理解し易いよう指導するために、アニメをもとに大きな声を出す練習や声を出しながらのすり足をしました。

少年剣道教室指導で、初心者のみならず高学年の経験者にも大きな声を出す練習に活用したいと思いました。

今回、素晴らしい先生方による講習会を受講させていただきました、正しい剣道の実践を目指し、子供たちの指導に努めて行きたいと思えます。



剣道七段に合格して

中能登町
東屋 晴夫



この度、昨年の十二月に愛知審査会において、四回目の挑戦で七段に合格させて頂くことができました。

合格に際し、県剣連だよりへの原稿依頼を受け、前号の投稿者、横井先生、山下先生の前稿を読ませて頂き、受審に対して各稽古会に向き、凄じ努力をされたことに驚きを隠せませんでした。

実は、私の練習方法は自宅での練習がメインで、実質の稽古は毎週土曜日に宝達志水町にお邪魔し、田畑武正先生のご指導を頂くだけでした。そのため、自宅での練習は、合板との出会いで始まりまして、長さ2m、幅42cm、厚さ3cmの物です。



私の考えでは素振りだけでは打ち込む際の体の勢いを出すことが難しく、打ち込みが出来る練習環境を自宅で作ったことが剣道を長く続けられ、昇段に繋がった要因と思っております。自宅練習を始めて十三年、晩酌後、毎日午後八時から三十分程度行っております。

七段の審査に向けては、前回の審査の反省で、自分には審査の立会の仕方を理解していないことに気づきました。

そこで、剣道仲間の山森康二先生から YouTube に剣道審査の映像が沢山あることを聞き、これだと思いつき出し、審査で最も難関の剣道八段二次審査の映像から学ぶこととし、気合、初太刀、表裏からの攻め心の持ち方など立会のイメージ作りを徹底して行ないました。

田畑武正先生からは、左足、左手、左脇の絞めなど沢山のご指導を頂きました。

当日の審査では、相手の顔をしっかりとみ、打ちたい気持ちを抑え、慌てないことに心掛けました。一人目は、出小手で先手がとれたことで落ち着きましたが、もう一本と思いついて行ったところ、見事に小手

を打たれました。二人目は、詰めての小手、終了間際に返し胴。合格発表で一人目の方も合格したことで、相手にも恵まれた気がします。現在、六十四歳、健康のために剣道を続けて行ければ良いと思っております。

【全国大会等記録】(1~6月)

第28回松本旗争奪県高校剣道選抜大会

1月19日、小松市武道館

◇男子団体

▽準決勝

津 幡 ②-① 金 沢

金沢桜丘 ②-① 羽 昨工業

▽決勝

金沢桜丘 ①-① 津 幡

(代表戦)

◇女子団体

▽準決勝

金沢桜丘 ②-① 金 沢

羽 昨 ②-① 星 稜

▽決勝

羽 昨 ③-① 金 沢桜丘

第29回庄川清流杯北信越高校剣道大会

2月1・2日、庄川体育センター

◇男子団体

▽準決勝

龍谷富山 ①-① 羽 昨工業

新潟商業 ③-① 金 沢市工

◇女子団体

▽準決勝

富山北部 ①-① 金 沢

富山北部 ②-① 長 野 商 業

羽 昨 ④-① 松 商 学 園

星 稜 ③-② 金 沢 桜 丘

▽準決勝

富山北部 ②-① 星 稜

富山北部 ①-② 羽 昨

※お詫びと訂正

前号(第45号)での全国大会等記録で第74回国民体育大会少年女子準々決勝の結果は、石川0-⑤茨城の誤りでした。お詫びと訂正をします。

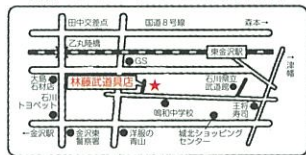


林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

【営業品目】
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL 249-8233
〒921-8065 FAX 249-9139